



平成 27 年 6 月吉日
アメリカ穀物協会

アメリカ穀物協会主催
「台頭するアジアの食料確保への日本の畜産業の役割」
シンポジウム開催のご案内

拝啓 時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、来る 7 月 13 日月曜日、当協会主催（協力：在札幌米国総領事館）標記シンポジウム（参加費無料）を JR タワーホテル日航札幌（北海道札幌市）にて開催致します。アメリカ穀物協会では 2040 年の東アジアの食と農の未来に関する調査「Food 2040」の報告、2013 年に発表された「台頭するアジア食料市場への日本の貢献」への提言を踏まえ、アジアの食料確保や日米両国とひいては世界の食料安全保障への日本の畜産業の役割について専門家による検討を行いました。その成果として、バルク農産物を日本国内で加工し付加価値を付けてアジア諸国へ輸出することによる、日本の畜産業の拡大が図れるという結論が出され、さらにその畜産業拡大にとって米国穀物業界の果たすべき役割を提言（5 枚目に添付）としてまとめ、昨年 12 月に東京にて発表いたしました。

本シンポジウムでは、在日米国大使館のマンジーノ農務官による米国での農産物輸出促進政策の講演の後、日本の農業生産と畜産生産の大きな役割を担っている北海道が、より広く市場を広げてアジアへの食料の供給を担う可能性について、また、米国の穀物生産者のあるべきかかわり方について専門家による議論を進めたいと考えています。

つきましては、お忙しい中とは存じますが、是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。

詳細につきましては下記をご参照ください。参加お申込みは、**7 月 6 日(月)**までに、ファックス (Fax : 03-6205-4960)、または Email: grainsjp@gol.com までお願い致します。また、ご質問等がございましたら、浜本または小野澤までお電話 (Tel:03-6206-1041) か Email (grainsjp@gol.com) にてご連絡いただければ幸いです。

敬具

記

「台頭するアジアの食料確保への日本の畜産業の役割」

主催：アメリカ穀物協会 協力：在札幌米国総領事館

- 開催日時：2015 年 7 月 13 日（月）13:30 – 16:30（13:00 開場）
- 開催場所：JR タワーホテル日航札幌 36 階 スカイバンケットルーム「たいよう」
〒060-0005 北海道札幌市中央区北 5 条西 2 丁目 5 番地
Tel: 011-251-2222
- プログラム 添付資料をご覧ください。

以上

11F, Toranomomon Denki Bldg. No. 3,
1-2-20 Toranomom, Minato-ku
Tokyo 105-0001
Phone: 03-6206-1041
Fax: 03-6205-4960



「台頭するアジアの食料確保への日本の畜産業の役割」

日時：2015年7月13日（月）講演会：13:30 - 16:30（13:00 開場）

会場：JR タワーホテル日航札幌 36階 スカイバンケットルーム「たいよう」
〒060-0005 北海道札幌市中央区北5条西2丁目5番地

プログラム（予定）

(13:00 会場受付開始)

- 13:30 pm 開会のあいさつ
在札幌米国総領事館 首席領事 ジョエレン・ゴーク
- 13:35 pm 特別講演 「米国産農産物の輸出促進政策」
在日米国大使館農務部 農務官 エバン・マンジーノ
- 14:05 pm 基調講演 「台頭するアジアの食料確保への日本の畜産業の役割」
東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 本間 正義
- 14:35 pm コーヒーブレイク
- 14:50 pm パネルディスカッション
- パネリスト：
東京農業大学 国際食料情報学部 教授 堀田 和彦
ブリッジインターナショナル 代表取締役 高橋 寛
丸紅経済研究所 所長 美甘 哲秀
宮城大学 食産業学部 教授 三石 誠司
- モデレーター：
東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 本間 正義
- 16:25 pm 閉会のあいさつ アメリカ穀物協会 日本事務所 代表 浜本哲郎
- 16:30 pm 終了



アメリカ穀物協会 行
メール添付で送る場合： grainsjp@gol.com
Fax で送る場合： 03-6205-4960

アメリカ穀物協会主催
在札幌米国総領事館協力
「台頭するアジアの食料確保への日本の畜産業の役割」
シンポジウム

日時：2015年7月13日（月）13:30（13:00開場）～16:30（予定）
場所：JRタワーホテル日航札幌 36階 スカイバンケットルーム「たいよう」
〒060-0005北海道札幌市中央区北5条西2丁目5番地
（地図参照）

日本語と英語の両方でご記入をお願いいたします。
出席者が5名以上の場合、更に返信用紙を追加してお使いください

御社名 (日本語と英語)	お役職名 (日本語と英語)	お名前 (日本語と英語)	電話番号

※ 当日は受付用にお名刺を1枚ご用意くださいます様お願い致します。



日時：2015年7月13日（月）13:30（13:00開場）～16:30（予定）

場所：JRタワーホテル日航札幌 36階 スカイバンケットルーム「たいよう」
〒060-0005北海道札幌市中央区北5条西2丁目5番地
（JR札幌駅南口直結）

会場周辺地図

JR札幌駅からお越しの方



11F, Toranomomon Denki Bldg. No. 3,
1-2-20 Toranomomon, Minato-ku
Tokyo 105-0001
Phone: 03-6206-1041
Fax: 03-6205-4960



平成 26 年 12 月 22 日

「日本の畜産業の将来と米国への要望」

台頭するアジア食糧市場における米国产飼料穀物利用振興に関する検討会

背景

輸出に注目した日本農業の展開についてまとめた 2013 年 5 月 20 日の「アジア食料市場への日本の挑戦」の中で、日本からの畜産物輸出の戦略について提言がなされている¹⁾が、そのためには何が米国に期待されるのかを本検討会で検討し、米国への要望を提言する。

望まれる日本の畜産業の将来と日米の貿易関係

国内は人口の減少で市場が縮小するが、日本産の食料の供給先は世界にある。特に成長著しいアジア諸国に向け、付加価値を付けて輸出するという加工貿易型の輸出に、日本畜産業の望ましい発展の可能性が存在する。このような特別な付加価値を付けた輸出は、畜産業に限らず加工食品の品質向上や地域ブランドの確立などを通じて今でも行われているが、これをさらに進めることにより、農産物輸出国としての日本の農業を再生させることができる。国内市場に加えてそのような市場に畜産物を供給するためには、年間 2000 万トン程度の穀物輸入が必要とされるが、その確保には、やみくもに産地の多角化などでリスクの拡大を行うのではなく、むしろインフラが充実し政治的関係も安定している輸出国すなわち米国とのバルク穀物供給のパイプを確固たるものにし、どのような事態が生じても確実に必要量を確保できる関係を築くことが必須であり、食料安全保障の観点からも重要である。さらに、そのような供給のパイプを利用し、輸入トウモロコシからのバイオエタノール生産システムを穀物受け入れ施設に併設すること、この供給パイプとともにトレーサビリティに基づく高品質穀物の流通体制を構築し、バイオテクノロジーによる機能性付加穀物・食品の利用を広げるといった可能性を探ることが求められる。

米国穀物業界への提言

上記の望まれる日本の畜産業の将来と日米の貿易関係を構築するため、以下を提言する。

- 米国内インフラの持続的活用によるバルク穀物の高品質で安定した供給の継続
- バルク輸送の船舶大規模化などによるさらなる輸送効率化によるコストダウン
- リアルタイムでの穀物生産・生育状況の情報提供
- バイオテクノロジーによる機能性付加穀物・食品の創生
- トレーサビリティや個別の生産契約に基づく高付加価値穀物の委託生産市場の創生

¹⁾ 「アジア食料市場への日本の挑戦」(台頭するアジアの食糧市場への日本の貢献検討会、2013 年 5 月 20 日)
<http://grainsjp.org/cms/wp-content/uploads/Food2040-Teigen-J.pdf>